

松江高専と連携協定締結

技術者の人材育成等を支援

会本部
士本
術中
技中

日本技術士会中国本部（大田一夫本部長）は18日、松江工業高等専門学校と連携協力に関する協定を締結した。

「21世紀の中核となる技術者の人材育成を支援し、地域社会の発展に貢献すること」が目的で、同日に島根県松江市にある松江高専で調印式を開催。大田本部長と天津宏康校長がそれぞれ協定書に署名した。

日本技術士会と高専が同様な協定を締結した例は、今回で6度目・9校目を数える。このうち、中国地方では、中国本部岡山県支部と津山高専（2013年）、中国本部山口県支部と徳山高専（19年）、さらに中国本部と呉高専（同）で協定を取り交わしており、今回が4度目・4校目となる。両者が連携協力する事項は▽技術士、教職員双方の資質向上に向けての活動に関すること▽学生の教育支援及び社会貢献活動に関すること▽学校

教育の向上等に関して必要と認められる事項に関すること―など。

具体的には▽松江高専の授業への技術士派遣、中国本部主催の講演会の講師としての教員派遣▽小中学生に対する理科教室の開催▽市民への防災教育、災害被災地への復興支援活動▽松江高専の

研究シーズと企業ニーズを結び付けることによる新技術・新産業の創出―といった取り組みをイメージしている。

調印式で大田本部長は「今回の協定締結が人材育成の面だけでなく、地域社会が抱えるさまざまな課題の解決や魅力ある地域づくりにも貢献し、お互いがウィンウィンの関係になることを心から願っている」と挨拶し、両者の今後の取り組みに大きな期待を込めた。



調印式のもよう（左が天津校長、右が大田本部長）